

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達療育教室じゅら			
○保護者評価実施期間	2025年10月 1日 ~ 2025年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数)	20人
○従業者評価実施期間	2025年10月 1日 ~ 2025年 10月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月15日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自由時間以外は常に集団を意識した療育を行い、マイペースからユアペースへと、徐々に言動を変化させていく姿がうかがえます。集団を意識した言動を練習・獲得していく中で、お友達への興味や理解が芽生え、自由時間中の一人遊び等も減っていくという効果も見られます。	基本的に、何事も集団で行うことを推奨しています。自由時間も、なるべく中庭へ出て体を動かす遊びへとお誘いし、みんなと一緒に遊んだほうが「楽しかった」と思っていただけるような支援を目指しています。遊びには必ず職員も一緒に参加し、お子様方の様子をそばで観察しながら、それぞれのお子様にあったタイミングやベースで、お子様同士の関わりをサポートしていきます。	活動内容や遊びのバリエーションを増やし、お子様方から飽きられないような課題提供を継続して企画・考案していきたいと思っています。
2	定期的な集団歩行を提供し、基礎体力の向上や、一定のペースで歩くことによる情緒の安定を図っています。また、前後するお友達との距離感覚の獲得や、手つなぎ歩行による他者を気遣う動きなどの習得も目指しています。5年生になってからの学校行事の自然学校では、日頃の山道歩行の効果により、苦もなく歩けたとの報告も多く受けています。	集団歩行や活動の際には、隣り合うお子様同士の相性や特性に留意し、それぞれのお子様方がなるべく落ち着き、集中しやすい環境調整を目指しています。お子様同士の手つなぎでは未だ歩行時の安定感に不安のある方に対しては、必要に応じて職員が手つなぎを行い、徐々に足の運びや情緒の安定が図られた際には、お子様同士の手つなぎへと移行しています。山道歩行などで坂道や階段歩行を促し、自分のからだが前後左右に傾いたり、それに抗う抗重力動作を習得するという観点からも、集団歩行時の足の運びや姿勢を観察しています。	学年ごとの下校時間の違いにより、集団が崩つて活動できる時間には限りがあります。下級生と上級生など、前後半でグループ分け等を行い、歩行距離や運動時間を充分確保していく等の工夫を再考していきたいと思います。
3	固有覚や前庭覚など、感覚に働きかける運動療育を主に提供する中で、こだわりの軽減や偏食などの緩和効果も、保護者様より報告を受けることが多いです。個別に持つ様々な感覚の凸凹さによる日常生活の困難さを、少しでも緩和していくような支援を目指しています。	巧技台や平均台を用いたサークル運動などを提供し、バランスの立て直しや素足による健足歩行、ツヅツしたバランスディスク上で一定時間の姿勢保持などを行い、体の中の様々な感覚へ意図的に刺激を注入していきます。また、毎日の日課としてストレッチや体幹トレーニングを行ってから、歩行や運動へと促していきます。準備運動を行って体を目覚めさせてから、感覚注入運動へと取り組んで頂けるよう工夫をしています。ストレッチや体幹トレーニングは、自分の体を知る(身体図式の向上)作業として大事であると考えています。土曜日や長期休暇中など、充分な療育時間が確保できる日には机上学習にて微細運動や、コグトレなどの視空間認知学習を提供しています。	運動が苦手なお子様にも十分なサポート体制を用意し、一人ひとりが無理なく、楽しみながら、スマイルステップで達成感を得られるような支援をより提供していきたいと思っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	主に集団活動や運動を中心とした療育提供を行っているため、お子様によっては苦手意識から反発心が強く出たり、自閉的な特性の強いお子様にとっては慣れるまでに時間を要したりと、療育内容との相性の悪いお子様もいるように感じます。	提供する活動課題の難易度・強度が、時に均一になり過ぎる場面があり、学年や発達特性に合わせた内容や、個別の目標に沿った難易度で提供していくようにする必要性を感じています。お子様によっては物足りないと感じたり、または難しいとあきらめたり嫌がってしまう場面があると感じています。	幅広いニーズに応え得る療育方針やカリキュラムを、今後の社会ニーズの変革に応えるべく、検討していかなければならないと感じています。課題内容もマンネリ化を防ぎ、定期的に飽きさせないように刷新していくよう企画をしていきたいと思っています。
2	上記のような内容から、お子様の特性に沿った手厚い関わりや、発達度合いに合わせた個別対応に少し弱さがあると感じています。	運動だけでなく、保護者の皆様にとって分かりやすい、言語面をはじめとする生活における基本的スキルの習得など、日々の課題に対して直接アプローチを図っていく療育内容も提供していきたいが、それを担う専門的な有資格者の確保が難しくなつてきていると感じます。	児童指導員だけではなく、専門的支援を提供しうる有資格者の採用や確保を強化していく必要性を感じています。
3	定期的な集団歩行や感覚運動などのカリキュラムによって、粗大運動には多くの機会を提供していく反面、微細運動や発語訓練など、早急に生活スキルを磨くようなニーズに応え得る療育は少なく思います。あくまでも感覚統合を図り、徐々に認知や処理能力の向上を目指していくという理念との相互性が、保護者様との間にあって初めて支援させていただけるものと認識しています。	感覚運動や、それに伴う固有覚・前庭覚などへのアプローチなどは少し即効性に乏しく、徐々に感覚統合を図っていくものとなり、保護者の皆様にとってあまり聞き慣れない内容も多いのではないかと思います。	新規ご利用をご検討されている方々に対し事業所の見学などの際に、療育方針やカリキュラムの詳しいご説明を行い、当事業所の理念や療育内容に対して充分なご理解を得られるよう努めていきたいと思っています。

**保護者等向け 放課後等デイサービス評価表**

公表日: 2025年12月26日

事業所名: 放課後等デイサービス 発達療育教室じゅら

対象人数(保護者)25人 回答者数 20人 回収 80%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ました対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18			2		毎月末頃に1ヵ月の療育の様子を個別に写真でお送りしていますが、その際に室内活動写真なども交えてお見せし、室内での活動スペースへの周知・認識をしていただけるよう努めます。
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	19			1		法令順守に沿った職員配置を実施し、活動は基本的に3~4名の職員で療育提供を行っています。活動風景の写真や療育参観日などを活用し、利用者様へ周知していきたいと思います。
	③	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2		1		古い洋館風の建造物のため、死角は比較的多いと思われます。壁を取り払うリフォームや床材を色の明るくクッション性のあるものに変えるなどして、児童療育の場に合わせた空間作りは行っています。段差などは以前の建造物のままであるため、必ず職員が近くで見守り必要に応じて手を添える等の対応を行っています。 日々の活動スケジュールは療育室に入った際に見える場所へ可視化(ホワイトボードにして提示し、ある程度のパターン化を図ることにより見通しを持って参加いただけるよう努めています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ました対応
適切な支援の提供	⑤	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20					
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20					
	⑦	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	20					
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	1		2		支援計画作成後の保護者様への説明内容や伝達方法などに留意し、工夫していきたいと思います。より具体的に、分かりやすいものをを目指してきたいと思います。
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20					
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	2				集団歩行ばかりに偏らないよう留意し、粗大運動や微細運動などの感覚統合に繋がる療育提供の機会を、バランスよく増やしていく様に努めています。
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	4	4	6		夏場には法人全体で夏祭りを開催いたしました。今年度末の12月には地域交流の場として、飲食物などの出店やフリーマーケットなどの催しを開催する予定です。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ました対応
保護者への説明等	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19			1		外部の講師を招き、区民ホールを借りて就労へ向けた講演会を開催いたしました。日時が限定的ではあったため、今後も機会を設け、全体的に参加を促せるようなスケジューリングに留意していきたいと思います。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	20					
	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20					
	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20				非常にそう思います	
	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	3		2		年に1回程度は保護者会を開催していますが、利用者様によっては都合がつかない場合もあると感じます。より定期的に開催するか、グループ単位で分けて開催するなど、今後工夫が必要であると考えています。療育参観日などはご兄弟も参加可能ですが、学校休業日の土曜日や祝日などに日にちが限定されやすいため、満遍なく利用者様のニーズに応えていけるような支援を参考していきたいと思います。
	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			1		医療や相談支援事業所、就労支援事業所などとの連携を強化し、利用者様から相談依頼があった際には、迅速かつ適切にアドバイスしていくよう努めていきたいと思います。
	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20					
	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	1		1		日々の活動内容はHUGアプリを通じてお知らせしています。毎月末には個別に活動での様子を写真で送信しています。毎月の行事やスケジュールもHUGアプリ内の申し込み内容一覧で順次確認可能です。 自己評価に関しては事業所のホームページへの周知が足りなかった面も否めません。今後は周知していきたいと思います。
	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			1		個人情報の取扱いについては、契約時に書面と共にご説明し、ご署名を個別に頂いています。その他、個人情報の保管場所や日々使用している実績票などの取り扱いについては、必要や求めに応じてご依頼があれば個別にお伝えしていきたいと思います。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	㉓ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17			3		各種マニュアルに関しては、ご契約時にそれぞれ個別にご説明、お渡ししています。個々の想定訓練に関しては、職員の研修・訓練に関しては行っているといえます。
	㉔ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			4		地震・火災・土砂災害など各避難訓練は年間を通して定期的に行っていますが、すべての利用者様の利用日と上手く合わせて行われているわけではありません。徐々に満遍なく参加いただけるよう企画していきたいと思います。
	㉕ 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19			1		安全計画に関しては、各種マニュアルを用いて契約時に個別にご説明を行っています。また、個別支援計画書にも一部、明文化して掲載しています。実際の支援現場での対応というところでは、療育参観日などの見学機会を増やすなど、保護者様へ実際の活動風景を見せていただけるような企画を検討していきたいと思います。
	㉖ 事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1		2	事故等があったことがない。	怪我などが起きた際には速やかに、事前に保護者様からご指定を受けた緊急連絡先へご報告し、必要に応じて処置を行っています。日中お仕事などによりどうしてもご連絡がつかない保護者様に対しては、メールやHUGアプリなどを活用してご連絡し、お帰りの送迎の際に改めて詳しい事情をお伝えしています。
満足度	㉗ こどもは安心感をもつて通所していますか。	18	2				様々な困り感を持って来所して下さっている利用者様方にに対し、集団療育を通じて他児との交流や活動を楽しんでいただけるような支援を目指していきたいと思っています。至らないところは職員一同で都度会議を開き、定期的に事例検討会も行っています。
	㉘ こどもは通所を楽しみにしていますか。	15	5			とても楽しみにしています。生きがいになっています。	「18歳を笑顔で迎えられるように」という方針のもと、将来社会へ出していく際に必要と考えられるスキルの獲得を目指し、時には楽しくない課題や自分の思い通りには進まない活動を提供する場面があると思われます。そういった一種の耐性トレーニングなども、徐々に認知力やユアベースの獲得を図っていく事により、生活スキルの向上や少しでも楽しい学校生活へと繋がるような支援であったと、後々ご理解いただけるように努めています。
	㉙ 事業所の支援に満足していますか。	20					

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		発達療育教室じゅら				公表日	2025年 12月 26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	建物の構造上死角になりやすい場所もあるため、スタッフ間で立ち位置に気をつけながら療育にあたっています。	療育提供する室内をさらに整理整頓、環境調整を行いながら、視覚的にもなるべく刺激の少ない環境にしていく事が必要であると感じています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1		床材などクッション性の高いものに変更したり、お子様の特性に合わせ徐々に刷新してはいますが、今後も定期的に環境調整を見直し、過ごしやすく活動提供しやすい、明るい室内環境を目指していきたいと思っています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		集団活動の場とは別に、周囲の環境要因に影響されやすいお子様に対して、個別学習やクールダウンの場所としての「学習室」が別にあり、お子様方にも周知しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	主たる職員に限定されやすく、非常勤の職員までは時間的な制約もあり、充分な周知徹底が足りていない場合もあることは否めません。	勤務時間や就業開始時間前などに、職員各位の都合や承諾のちと、広く職員が参画していくような時間を設けていく必要性を感じています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日の療育提供前に、職員全員との引継ぎや振り返りの機会を設け、業務や療育内容の改善に繋げています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5			今後、外部関係機関や専門家の講演会などに職員を派遣し、各自Q&Aを求めつつ、職員一人ひとりの質の向上や学びへと繋げていきたいと考えています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	職員各自で興味のある講演会や研修へと参加しています。また、2カ月に1回の法人全体の事例検討会を実施し、職員一人ひとりの意見交換や課題へ向けた話し合いの場を確保しています。	非常勤の職員に対しても、研修や事例検討会などへの参加を、各自の同意のもと求めていく事を検討していきたいと思っています。	
支援プログラム	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	支援計画に基づき、週案に沿って計画的に支援や活動内容を提供しています。お子様個々の特性や発達の度合いに沿った、個別目標に合致した療育提供ができているかと考えた場合には、必ずしも個別のケースに合わせた活動内容であるとは言い切れない側面もあります。	あくまでも集団療育の視点と、個別のケースや目標値との相互関係の中、時に活動内容やその強度の差異に課題は感じています。より専門的な視点や職員数の確保を求め、それによって個別に療育提供していくような充分な配置を考えていきたいと思います。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1		非常に勤の職員との立案や意見交換の機会は、時間的な制約もあり少ないと、個別に時間を作り、都度参画していけるような体制を構築していきたいと思います。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1		どうしても感覚運動や集団歩行などの活動に偏る傾向はあるため、お子様を飽きさせないように、各職員と共に新しい活動内容や企画を日々検討していきたいと思います。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1		集団療育を主体として諦っているため、お子様個々人の特性や発達の度合いに沿った個別療育としては、今後に課題が残ると思われます。より専門的な有資格者や職員配置数を増やすし、個別のニーズに沿って支援していくよう刷新していきたいと思っています。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	1		非常に勤の職員に対しても個別に時間を設け、お子様個々の支援計画書や成育歴などを読んでもらい、それを踏まえた関わりや支援をより求めていきたいと思います。そのためにはどのような書類や情報があるのか?など、一人ひとりの職員へ周知徹底していく必要性があると感じています。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	2	3	集団活動を主体とした療育において、お子様個々人の「意思決定」の場は、他のデイさんよりも少ない事は確かであると思っています。お子様が集団の動きや場の雰囲気を読み取り、行動を合わせ、マイペースからユアペースへと行動を変化させていく中で社会適応力を育み、感覚の統合を養ってから初めて、場や状況に合わせた適正な「意思決定」が成されるものと考えています。	幼稚期から小学生における、お子様の「自己決定」とは何か?という問い合わせを、日々一人ひとりの職員へ問い合わせていきたいと思っています。職員一人ひとりが自分で「考えられる」療育者を目指していけるようサポートしていきたいと思っています。
連携による支援の実現	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	主に隣り合う、多機能型の児童発達支援事業所から新規ご利用希望者様に問しても、保護者様の同意の有無、幼児期や園でのご様子を詳しく伺っています。あくまでも保護者様からの同意や情報公開を主としているため、今後は関係機関との連携という観点からも、保護様の同意を得ながら、デイから関係機関と直接のやり取りや情報の共有などを図っていきたいと思います。	外部からの新規ご利用希望者様に問しても、保護者様の同意の有無、幼児期や園でのご様子を詳しく伺っています。あくまでも保護者様からの同意や情報公開を主としているため、今後は関係機関との連携という観点からも、保護様の同意を得ながら、デイから関係機関と直接のやり取りや情報の共有などを図っていきたいと思います。

関係機関や保護者との連携	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		1	4	法人内に就労支援事業所もあるため、定期的な勉強会や事例検討会などの場を設け、今後成人期まで療育に携わったケースが生じた場合は、相互事業所の情報交換や共有を行うことは可能です。	まだ当事業所(小学6年生までのご利用規定)では、小学校から中学校へ移行した利用者様のケースしか携わっていないため、障害福祉サービス事業所等へ移行した場合のことに関してはあくまでも、今後の課題や仮定となってしまいます。今後移行があった際には、保護者様の求めや同意を得たうえで、それまでの支援内容等の情報を提供していくつもりです。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		1	4	定期的に開催される子ども部会や、事業所主催の勉強会などに参加し、他事業所や講師の方々の意見やケースを伺いながら、当事業所職員へも内容や情報の還元を図っています。	広く様々な職員へも、部会や事業所間の勉強会へ参加していけるようにしていきたいと考えています。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		1	4	今期の冬に「クリスマスフェスティバル」と称し、広く利用者様に限らず、地域の方々もお誘いする催しを企画、実行いたします。	
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		2	3	定期的に開催される自立支援協議会への参加は職員や時期は限定的ではありますが、参加していくよう努めています。	広く様々な職員へも参加を促していくようにしていきたいと考えています。
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		5			
保護者への説明等	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		3	2	個別の相談支援は必要に応じて行っています。今期は「北部しごとサポート」の方を外部講師として招き、区民ホールを借りて広く利用者様方へ講演会のご案内を行い、実施いたしました。	保護者様方の交流や意見交換の場としても、今後はより日時を割いて、「保護者会」を設けていく必要性を感じています。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		5			
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		5			
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		5			
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		5			
保護者への説明等	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5			
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		5			
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		5			
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。		5			
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		5			
その他	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	1	今期の冬に「クリスマスフェスティバル」と称し、広く利用者様に限らず、地域の方々もお誘いする催しを企画、実行いたします。	
	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		5			
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		5			
その他	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		5			

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			